HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第百号の巻頭に題す
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 100
Issue Date	1938-03-15
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77654
Type	column
File Information	A018_02_03all_Part42.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第百號の巻頭に題す

この第百號は特別號になつて居る。百と云ふ數字の魅力がさうさしたのであらう。此數字が數字の系列に於いて一つの特別の階段をなして居るからである。古來百をもつて或ひは統一の單位となし或ひは多數を意味し繁榮を暗示する幸運の數となす風は皆同じ考へからであらう

上古、水田の地積を算するに百刈段歩と云ふ事があつた。又官幣大社氷川神社には百味御膳と云ふ古雅の祭典がある。大垣藩の百匹馬の制、土佐藩の百人衆、皆百を用ひて居る、大化の新政當時にありては、百姓とは百ある人の義であつて、一般に良家の人を意味し、天下の公民大御寶の義に外ならなかつた。後公家歳門其間より出で權

勢を高ゆるにつれ、一般百姓は其後塵を拜するに至つたのである。

西洋にても百年をもつて一世紀となし、又我が國の五人組十戸組にも比す可き百戸組がある。後には部落などの義となつて居る。それをハンドレッドと云ふ。

無限の空間、無窮の時間を、人は劃して有限となす。これ有限の人のかりそめの業とのみ云ふ可きではない。過去を顧み將來を案ぜん爲である。

本誌今や卷を重ねて百に及ぶ。顧る來し方の道程や長く、案ず可き行く手の道程やはるけし。

友よ、偉大なる足跡を殘し、光輝ある行く手を示せ。

（芒　亭）